



第17号

同窓会創立 35周年 記念号

発行 旭区高殿5-6-41 大阪府立旭高校同窓会 西中紀博 編集 旭窓会報編集委員会

ご挨拶

同窓会長 西中紀博



平成元年年度の総会も近づいてまいりました。

同窓会員の皆様には、お変わりなく活躍のことと思います。平素は同窓会発展のために何かとご協力下さり、誠にありがとうございます。

さて、この際私の思い出も少々記させていただきますと、同窓会の運営に私が係ることとなりましたのは昭和三十一年に旭を卒業、同時に同窓会役員になって幹事に推されてからであります。

ます。同窓会員をつなぐ大切な絆の役割を果たしております「旭窓会報」の発行が、郵送料、印刷費の値上がり等で危なくなつたこと、そして又、毎年一回の総会が開けず、三年乃至二年に一回の変更の止むなきに至つた事などあります。

折に皆様方に寄付を仰いだり、学校当局に入会時の会費納入額を増やしていただいたりして何とか本会の運営が続けられたことは幸いでありました。

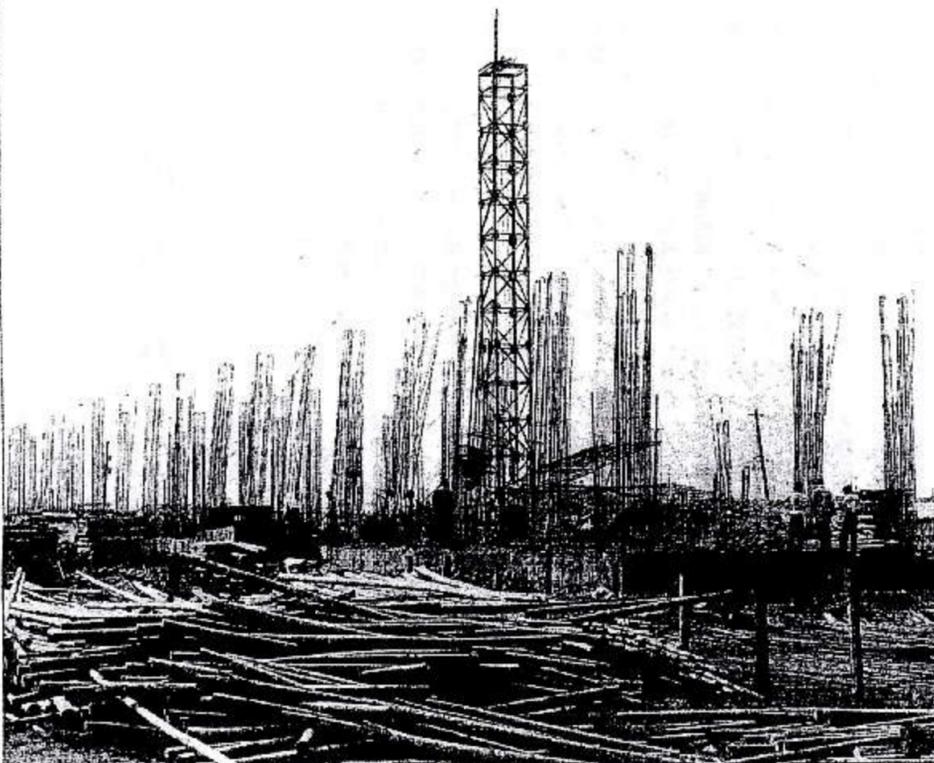
五十になつて社会的地位も定まり生活に余裕が出て来るようになりまして、心の余裕も出てきて、旧友、恩師とも会い、懐旧の情を交歓することが出来る心境となるわけですから、仕方がないことではあります。

母校近況 II 校長 石井康男



旭窓会の皆様におかれましては益々ご健勝でそれぞれの分野において活躍のことと心からお慶び申し上げます。

今春三月末日をもって田中精之助前校長先生が勇退になられましたので、その後任といたしまして四月一日に第九代校長として就任いたしました。



南館建設・基礎骨組 S・28. 春頃

微となつております。さて、ご承知のとおり、来春の大阪府下の中学校の卒業生数は、今春よりも約9000人も減少いたしました。

このような高校入学者の急減期を目前にして、各府立高校では生き残りのための諸施策を真剣に考えはじめています。

さて、去る五月二十六日(金)の午後、二年生に対する進路指導の環境をいたしまして、進路についての講演会を催し、講師として第一期卒業生の乾龍介氏(現朝日放送編成アナウンス課長)をお招きいたしました。

乾氏のお話は、高校時代の状況や学校の様子などから始まり、大学受験・大学生活(大阪教育大学数学専攻)・さらに朝日放送を選択した理由・入社後の状況・放送中にした失敗談などを巧みな話術で語られ、生徒達は真剣に聞き入っていました。

中心であり、国際化の拠点になるという意味において非常に重要な意味を持つておられると思われまふ。旭高校では、英語教育に力点を置いた教育を進めてきております。

生きた英語を学ぶことで生徒達は、英語に対する興味や関心を高めつつあります。このような特色をさらに増加させ伸張、発展させていくことによつて、府立高校の中で旭高校の揺るぎない位置を築いていこうと考へております。

卒業が昭和三十年ですから、随分古い話になってしましますが、新設校のことですから何事に限らず目新しいことばかりで、同窓会も卒業間際の慌ただしい中で発足しました。

一期生というところで全体の団結も強く先生方と生徒の間も緊密なものがありましたし、随分家族的でもありました。将来にわたつて立派な学校にしていくという気持ちはそれは強く皆の気持ちの中に流れていたのを感じました。

10月22日(日) 昼1時 母校「旭」にみんな集まれ~!

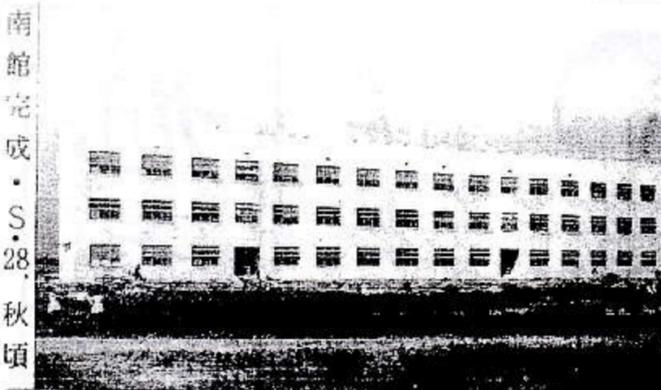
母校は今年四月、創立三十七周年を迎えました。同窓生の皆様はそれぞれご立派にご活躍のこととお喜び申し上げます。

日時 平成元年十月二十二日(日) 午後一時~四時 場所 母校会議室及び旭窓会館 (地下鉄・谷町線四丁目下車)

- 一、開会の辞
二、会長あいさつ
三、学校長あいさつ
四、議事
イ、行事報告
ロ、会計報告
ハ、会計監査報告
ニ、その他
五、閉会の辞
○懇親会 二時~四時
費用 四、〇〇〇円 (但し三十四期以降、〇〇〇円)
(当日徴収いたします。)

少しはありました、それがかえって皆の気持ちを奮い立たせた気がするのです。一見纏まりのない学校生活に見えたものの、一人一人の心の中は、計り知れないほどの強烈な思い出となって生きています。いまそれが当時の色褪せかけた古い写真でバックが木造のものであったり、城下の正面玄関前の進級時の集団写真であつたりすると、今にきつという学校にしてみせるんだ、というそれぞれの熱い思いが伝わってくる気がするのです。ですから、現在の、すでに立派に完成している学校のすがたを見ると感慨深いものがあります。

しかし、回顧、反省、そして絶えざる前進。そのための糧として、我々は各人の最大公約数をここに纏めて一冊を編む。"後書きの言葉として"の卒業写真集を見て思い出ばかりに浸っているわけにはいけません。果して二十数年を経て、後に続く後輩諸兄にすでに伝統といつてもいい何かを形作りつつある我が校の"歴史"を感じさせているだろうか、いささか気掛かりなところであります。同窓会の存在意義は決して軽くはないのですが、会員達の単なる親睦クラブに止まらず魅力ある学校づくりに貢献しなければならぬので、すからその運営は易しくありません。三十五周年を迎えたことを契機とし、会員諸兄のご理解とご協力を得て、更に強力な会の運営を期待するものであります。



南館完成・S・28 秋頃

「雑感」

三期生 二宮 金吾



昭和三十年代に「新設校」「色彩管理のモデルスクール」などといわれた旭高校も、三十五年以上経過し、真新しくなった校舎も永年の風雪をうけ、学校周辺の状況とともに大きく変わってきました。

私達が在学当時お世話になった先生方も、多くの方が定年を迎えられました。そして私達自身も、当時の私達の親の年代をすでに越えようとしています。過ぎ去った時間の経過の早さをつくづく実感する昨今です。それにしても、同窓の同期生とは不思議な仲間だと思ふ。ヤングからは「おじん」「おばん」と、あまりうれしくない呼ばれかたをする年代に入つたが、同期生が集まると、全く高校時代、青春時代が再現するのである。在学中の事など話し合ひはじめるると飽くことなく何時間でも話に花が咲き、皆が大いに楽しむので

ある。

数年に一度三期会をやっているが、最近はそのような点で、次第に盛り上がりも大きくなってきた。

就職、結婚、子育て、仕事と次から次へと追われてきた感じがするが、子供が自立をはじめたこの年代になると、お互いの中に、もう一度「自分」をとり戻そうといった気持ちも強くなってきているのである。

同窓会の存在というのは、そういうところで最もその意味が大きいようである。若い後輩諸兄にとっては、私達もそうであつたように、同窓会に対する関心はいま一つであると思えるが、次々と現在の私達の世代に入ってくるわけであるし、そういう意味では、旭の同窓会も、これから発展の時期と思えるのである。

後輩達が少しでも充実した高校生活を送り、「我が母校」がますます発展することを期待したいし、恩師の先生方には、いつまでもお元気で、私達の同窓会、同期会には是非お顔をかせていただきたい、そういう気持ちの強い昨今である。

(現、大阪府立鳥飼高校教頭)

「黙々と天語、黙々と天行」

六期生 梅本 憲史



同窓会の皆さま、お元気でやっておられますか。

「国語の先生(山本先生)に「おい梅本、そんな日本語があるか」と叱られそうですが、「そんなら大阪弁でいいよ。元気でやってはりますか」これなら、広辞苑にのって

なくても、何となくその意味がわかってもらえると思うんです。

広辞苑によれば「遺る」「行る」いずれにも「暮らす」の意味はないようですが、大阪弁の「やっつてはりますか」には、単に暮らすのではなく、日常の商売や仕事をちゃんとやりつつ暮らすという深い意味があるように思ふんです。

同窓会員の構成というのは、二つの面があります。一つは、学校全体の同窓会組織で、これは、毎年新卒

白馬村からこんにちは!

十二期生 矢口 由紀子(旧姓 三場)

十二期生の皆様お変わりなくお過ごしでしょうか。高校を卒業して、もう二十数年が過ぎ去つたのです。そのあひだに人生の主たることを経験し、気が付いてみれば、もうすっかりと社会に根ざしているのです。

二十代・三十代はただただ世の為?家族の為?と猪突猛進し、若さにものを言わせ、疲れることも知らず、仕事に、家庭にと情熱を注いできました。そして今四十年代になって、人間をやるコツが少し分かつて、精神的にも多少余裕ができて、自分の生きざまなんかをちょっと考えてみようかなあと思ふ年頃になってきました。

そんな折に旭窓会報に何か一言といわれ、そうか私にもかわいぬ高校時代があったのだなあ、懐かしさ、いろいろな事が思い出されました。私達の頃は、旭といえ、新設校・モデル校といふイメージが強く、何かと注目されていた学校でした。校舎は三棟が整然と建てられていて明るくきれいでした。食堂などは、府立校随一といわれるほど、立派で清潔感があふれていました。中庭には噴水があり、日光浴などしながらおしゃべりをした事なども楽しい思い出です。府立高校にしては、学園的なムードがありなんとなくおっとりとした雰囲気を持った学校でした。先生方も若くてユニークな方がたくさんいらつしたようです。睡きをとばしながら熱心に講義をして下さった国語の大野先生、男子生徒憧れの大窪双葉先生、英語の授業では定評のあった「おく目」こと藤田先生。先生方いろいろなニックネームをつけて随分楽しんだものでした。当時はまだ歴史も浅く、伝統もなかった旭でしたが、立派な先生、良い学友に恵まれ、想い出多い高校生活を送ることができました。こと今ではたいへん感謝しています。

当時の通学は、トローリーバスと京阪電車そして自転車などを利用していましたが、トローリーバスなどは、架線がよく外れ、その度に遅刻するんじゃないかとハラハラしたものでした。

今ではそのバスも無くなり地下鉄にかわつていくようですね。時代はどんどん移り変わり多分教育の内容も生徒の気質、あるいは価値観なども私達の頃とは随分違つていくことと思ひますが、高校時代の経験や思い出というものは、その人の人生になにか一石を投じるものがあるような気がしています。今の人達はどんな思い出を抱いて母校を巣立っていくのだろうかと思ふところがあります。

良い思い出をいっぱい抱き抱えて飛び立ってほしいと思ひます。

「母校」とか「出身校」という言葉はあまり日頃気にかけないことばなのですが、自分が卒業した学校がなくなつてしまつたという事実に出会つて、すごく淋しい思いがしました。

私は船場中学校の出身なのですが、廃校ということ、その名も校舎もなくなくなつてしまつたのです。これも時の流れの「コマ」なのですがなんととも言えぬ気持ちです。旭高校は、これからは創立五十年百年と益々発展し、素晴らしい高校になってほしいと願っています。

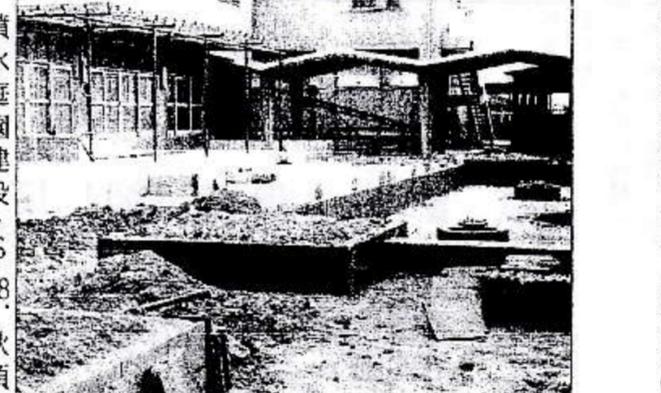
ところで今私は、大阪を離れ長野県に住んでいます。白馬村の村民になつて十五年、もうすっかり田舎のおばさんになつてしまいました。たまたま大阪のような大都会に行くこと、階段とアスファルトの路で足は痛くなるし、人の多さに頭は重く、地下街に入ろうものなら方向は分からなくなりその疲れようというものはたいへんなものです。白馬村を眺めながら長靴を履いて、田んぼ道を歩いているほうがもうすっかり性に合っているようです。それでも大阪は私の故郷ですので、たまには帰りたいなるものです。こちらでは、農業主に稲作として旅館業を営んでいます。自分の家で作つたお米や野菜を、宿泊のお客様にお出ししているという訳です。冬はスキー、春は関西方面からの中学校の修学旅行、夏は登山や学生の合宿といろんなお客様とおつきあひさせていただきその合間に、田舎や稲刈りと結構パラエティーに富んだ生活をしています。我が家

は、岩岳スキー場にあるのですが、作シーズンより人工降雪システムを導入しどんなに雪不足の冬でもスキーができるということに人気を呼んでいます。雪の降るのをただ待つのではなく、人工的に雪を作ってしまう時代になってきたようです。旭のスキー部も毎冬の家で合宿しがんばっています。

おかげさまで後輩とのつながりは、今も続いています。本当にうれしいものです。そして、今、長野県は冬期オリンピック誘致ということで県内はたいへん盛り上がりついています。主人も岩岳スキースクールの校長という立場で、スキーの指導者にスキー選手の育成に熱心に取り組んでいるようです。せっかく私も長野に住んでいるのですから是非この村でオリンピックを開催してもらいたいと思ひます。

スキーとは縁が切れなくて、雪国の住人になつてしまつたのですが、これからは浪速のど根性で強く明るくおもしろおかしく暮らしていきたいと思ひます。白馬にお越しの折には是非お立ち下さい。岩岳のスポーツ・ミヤマといえ、小さな村ですのですぐ分かると思ひます。懐かしい恩師と同級生の皆様、そして旭窓会の増々の御活躍と御発展を心よりお祈り申しあげます。

インナービレッジ・ミヤマ
〒399-093 長野県北安曇郡白馬村岩岳
電話(0261)721-2070(代)



噴水庭園建設・S・38 秋頃

オールド旭高会の
メンバーです
懐かしいあの顔・この顔
顔・顔・顔



二十年前：
あの頃の思い出
十八期生 西邑 満知子(旧姓 広田)



S45・二年生・クラスメイトと
高雄(ハイキング)ノ
前から二列目右端が私です。

旭高校の諸先生方、そして同級生の皆さんお元気でお過ごしでしょうか？一週間ほど前、高校時代の親友(今)の目下部君から旭憲会報へ投稿の依頼があり、長い間ペンを執った事もないので「私、よう書かんわ」と丁重(ツ)にお断わりしていたのですが、「誰も書いてくれる人いてへんねん、頼むわ」ともう一度プッシュされ、そこは相変わらぬ調子者「へへへ」と気のいい私、お引き受けてしまったのです。ではまず、自己紹介から、

私、花の二八生まれ十八期生の旭憲会系松村組の組員、通称「ヒロツベ」なのであります。

十八期生の方々、十八期生前後の方々「ああ」と思いついた方も少しはいらっしゃるでしょうか？

はらはらあのバスケット部にいた下半身デブでいちびり明るいだけ取り得のあの子、あの子なのです。私があの子を卒業してもう十七年も経ってしまっているんですけど、本当に早いものです。

前おきが長くなりましたが、思い出はあまりに多く、この書面に、はまらないくらいですが……

まずは一年の頃から、七組で担任は倉西先生で、男女の仲が良くユニークなメンバーが揃っていました。私たちは七人グループを作り対峙して男の子七人も集めグループ交際などというものもして、クリスマスパーティをしたり、いろんな所に遊びに行ったりして楽しんでいました。放課後は一人の男の子がギターを持ってきて、当時流行っていたフォークソングを音楽選択クラスであったことも手伝って、ハモラして歌ったりしてたっぴり青春を味わっていました。夕暮れ時にみんなで歌っているのですが、何か淋しさ哀しさを感じ知らぬ間に涙したこともあり、とにかく何かにつけて高校時代はよく泣きました。

校内のスポーツ大会で勝ったと言っ

ては泣き、友だちのボーイフレンドとの体験を聞いてショックで泣き、感受性が強く何事も純にとらえてしまう時期だったのでしよう。

音楽の授業の時、一時限目はクラシック音楽の鑑賞だったので、二時限目は落語鑑賞に変わったりしました。というのは、どういわけかうちのクラスには落研の男子が二人もいて、音楽の藤原先生がその二人に落語をリクエストなさるのです。二人共、とても落語が上手くおかげで私たちも楽しい思いをさせて頂きました。やっぱりこれは旭高校がパリの進学校でないのんびりした校風ならではのものだと思います。

家庭科の授業の休憩時間中にいたずらな私は「早弁」をして、家庭科の先生に「いい匂いがしますネ」と言われた事もありました。

この授業の時には「男子の人気投票」もワクワクした気持ちでしていました。

校内スポーツ大会のときはだいた選手になりスポーツ根性ものの世界に浸りきっていました。先生にある運動をしている時のキラキラした眼差しを何故、勉強の方に向けない

のかとよく注意を受けました。が、それはあまり後悔はしていません。そして旭高校にいた最大のメリットは多くの素晴らしい友人を得たことです。

今にその友人たちとは交友関係が続き、切っても切れない仲間になっています。何かある度に励まされたり、励ましたり忘れられない存在なのです。一生を通じての大切な友人になっていきます。電話の一声を聞けば、今、楽しい事があったのかっらい事があったのかもわかります。

旭 高 校 今 昔

二十三期生 阿辻 佳代子(旧姓 入江)



三年のクラスの結束もよく、今もずっと同窓会も続いているのです。少しとどえた時期もあったのですが毎年九月の第二日曜は松村組の同窓会の日に指定されていて、みんな万障繰り合わせて出席しています。

もちろん私はそのレギュラーメンバーの一人なのですが……

あともうすこしするとそのお楽しみの日がきます。その日は自分が泉大津のオパタアンであることも二児の母であることも忘れてさっそうと出かけてゆきたいと思えます。

この間卒業生のひとりから、「先生も年を取りましたね」と言われた。言いにくいことを、はっきりと言うものである。気分的にはまだ若いつもりであるのに、よる年波は隠しきれない。二十を過ぎ、まもなく二児の母になるのだから、ふけるのも当たり前だと自分に言い聞かせるのだが、自分がおもすれば十五歳の少女の感覚に舞い戻ってしまうのは、きつと環境のせいにはいかない。というの、わたしは十五の春からずっと旭高校に暮らしているからだ。

今までの人生の半分をわたしたは旭高校との関わりで過ごしてきた。大学の四年間は関係が比較的淡いもの、それでもやれクラブ活動だ、教育実習とかで、旭にはなにかと来る機会が多かった。

いつの間にか、旭の教員の中でもわたしは在籍の長いほうに入っている。

だから旭高校に起きている変化を見極めるにはもっとも便利な立場にいることになる。この八年の間に多くの生徒と出会い、別れていったわたしたりの経験を通過して、ここ数年の旭の変化を考えてみるならば、第一に気づくことは、生徒が年々優しくなっていくことだろう。わたしなどは「消費は美徳なり」という時代からいきなり「オイル・ショック」に直面した世代だから、何に對してもかなり食欲に生きるくせがついている。だからこそよけいに思うのかもしれないが、特に高校時代では好きなことをしようとみんながむしゃらだった。そこには若さの特権としての無謀なまでの頑張りがあった。ところが今の高校生を見てみると、実にゆったりしているというか、汗をかきたくない、ひたむきになるのがなくなるとか、こ悪いといった風潮が蔓延しているように見受けられる。ものごとに対する執着がないし、あきらめも早い。きつとものが溢れた時代に不自由なく育てられたからなのだろう。それが悪いというのではない。ただ彼らが人生を生きていく上での粘り強さをこれからどうやって身につけていくのかは、教師としても先輩としてなかなか気がなる。社会はますます豊かになりつつあるが、若者の精神ははたして同じように豊かになっているのだろうか。教師の悩みは深い。

(本校社会科教諭)

今!
カナダです!!
三十二期生
山根 養子

母校の思い出は、なんとか勉強をして、部活はスキー、いたずらに明け暮れた三年間でした。そのいたずらの幾つかを紹介します。

いたずら、その一
偽札、老萬円札を歩いている先生の後に落とし、先生お金落としたよ」と言った。一〇〇%と言って良いぐらい、どの先生もそれを慌てて拾った。

その二
あのハンバーガーのマクドナルドのハッシュポテトが出来た頃、保健委員だったことを利用し、友達に飯病をつかわせ、先生をまんまとひっかけ、念願のハッシュポテト十六人前を買に行くことが出来た。教室に持って帰ると、先生が心配そうに大丈夫かと聞いてくれた、さすがに悪いことをしたと反省したが、直らない。

その三
先生に何をしてもいいから、授業の邪魔をしないでくれと頼まれたので、友達とつれもって「しようえん」(旭の人なら)存じでしようえんに行ってきた。生活指導の先生がやってきた「しようえん」のおっちゃんの合図で隠れたが見付かりましたと思っ。三年九組は自習じゃないな、なにしている!って言われたので、開き直って、先生が何をしてもいいから、邪魔をするな」と言ったので出てきたと言った。生活指導の先生は、開いた口が塞がらず、部屋へ帰っていった。

その四
古文の時間、急にトイレに行きたくなった。まんよく廊下を、他のクラスのA君が歩いていたので、ちょっと代わってといて、代わって貰ったとたん、山根さん」とあてられた。一瞬焦ったが、トイレの方が勿論優先!隣の女の子が立ってくれた。先生の不思議そうな顔、今だ忘れられない。

その五

朝寝坊してしまつた。生物の授業は遅刻、生物室は前からしか入れない、仕方なく入って、一番後ろの席にすわると、「ごう、名前と理由を言う前にすわらなうて言われた。」「しよらもな」「もっと早く言えって、腹を立てて名前を言いにいった。」「理由は」と言われ、別になかったの、「遅刻」って答えた。自分のバカさにあきれている。その後遅刻の経験なし。

その六
B先生に、バカ三トリオといわれた。勿論否定はできない。入試に失敗、行くところはなし、専修学校を卒業し、翻訳の会社に就職したが、イングリッシュをものにしたくなり、六月から、単身カナダへ行くことにした。この様に思ったのも、旭高校の生活から始まったのかな。遅ればせながら頑張ります。

生徒の目からみた 旭高校

濱口一郎



三十七期生の目からみた、旭高校の一年を十二月月に分けてお話しします。
四月——これは誰が何と言おうが、やっぱり校門の桜につきます。下旬になると新入生がクラブで元気のいい声を出しているのが、聞こえます。
五月——毎度おなじみの前期生徒会選挙が行われます。やはり前期の会長は目立った者勝ちという、おもしろいかな(悪く言えば、いいかげん)空気のよさに選ばれます。
六月——このころになると暑さも増し、四年前に建ったプレハブ校舎(二階建てで、一階には生活指導部・

社会科教室、二階は二年十一組と十組の教室があります。そして、学校側はあくまでプレハブと言わず南新館と言いつける)の生徒は六限目になると暑さの為に見るも無惨な授業態度になっていきます。
七月——テストに始まりテストに終る。(プレハブの生徒は暑さとの闘いで)八月——この時に性格などが変わる人がいますが、一体何があつたのでしょうか。
九月——やって来ましたが学校行事の花形中の花形である文化祭。六月からの約三ヶ月間の準備を二日間にかける情熱はすごいものがあります。(ヤケクソの人がいないとは言いきれませんが...)体育大会、応援団のものすごいかけ声のもと、あれよあれよという間に一日が終わり、開口一番「つかれたあ」とあちこちで聞こえます。

十一月——年度の終りと始めの行事をしっかりとリードしていく後期生徒会選挙が行われます。プレハブは急に寒くなります。
十二月——このころになると目の色変えて勉強を始める人がいますが、終るや否や、クラスでクリスマスパーティーを予定する所もあり、やはり旭だなぁと思わせます。(プレハブは冷蔵庫です)
一月——正月気分さめやらぬ中で一、二年生は実力テスト、三年は受験などでテスト攻めにあります。
二月——卒業式。旅立ちに涙はつきものといった青春の名語録に出て来そうな言葉が、びったりとあうままだ肌寒い一日です。
三月——来るなら来い、でもなるべくなら来るなど言いたくなるのが学年末テストです。終業式の日には悲喜こももです。
おわりに——旭をざっと一年を通してみてみましたが、どうでしたでしょうか。やはり名前のアサヒのようには明るくて、さわやかな校風は「サザエさん」のように何年経っても変わらないだろうと思います。以上、プレハブ校舎の一生徒から見た、旭高校でした。
(生徒代議会議長)

昭和62・63年度 旭高校同窓会 決算書

寄附金

皆様へお願い

同窓会長 西中紀博

昭和六十三年度の寄附金が激減しました。
卒業時の入会金が終身会費でもありますが、卒業生の増加・各種行事への賛助他、出費の重なる事が多くなつて参りました。
その点を皆様、どうかご賢察いただきたくお願い申し上げます。
これからも継続して参りたいと思っておりますので、今後共向一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。寄附金のご送金は同封の郵便振替払込書をご利用いただければ幸いです。



母校人事

六十二年度末 人事

教頭	伊佐治昭二 退職
教諭(国)	藤沢 有彰
教諭(数)	難波 量平
教諭(英)	西川 明子 転出
教諭(英)	好川 佳司 山本高へ
事務長	古田由太郎 清水谷高へ
講師(数)	六十二年六月 物故
事務長	大谷 正典 退職
教頭	中村 敏 入昭
教諭(数)	川戸 良夫 高槻南高より
教諭(数)	東 建策 山本高より
事務長	戸田 浩司 泉北高より
事務長	南森 勉子 清水谷高より
事務長	前田 正和 千里高より
事務長	鳥羽 幹夫 茨田高より

六十三年度末 人事

校長	田中精之助 退職
教諭(国)	斎藤田鶴子
教諭(数)	岡村 健一 転出
教諭(数)	佐藤大三郎 退職
教諭(数)	池田 功 転出
教諭(数)	井上 政治 刀根山高へ
教諭(数)	久世 武志 三国丘高へ
教諭(数)	中口 敬一 大東高へ
教諭(英)	東 真須美 退職
教諭(英)	安本 毅 転出
教諭(英)	上村 良雄 清水谷高へ
講師(国)	上高原 博 退職
事務	福元 真生 転出

平成元年度 進路状況

技職	板谷 俊恵
校長	石井 康男 柴島高より
教諭(国)	佐良井徳宏 大東高より
教諭(数)	納屋 顕 池島高より
教諭(数)	谷 和夫 刀根山高より
教諭(数)	早川 康司 大東高より
教諭(数)	林 庸介 西淀川高より
教諭(数)	横田 裕 茨田高より
教諭(英)	武田 吉弘 少路高より
教諭(数)	康則 栄二 牧野高より
教諭(数)	柴田安希子 茨田高より
講師(国)	秋山 九季 新任
事務	浅井美保子 春日丘高より
技職	柏 マチ子 生野ろう学校より
☆産休臨時講師、非常勤講師は割愛	

平成元年度 進路状況

進学	国立大学四年制
私立大学四年制	一部二名(三) 二部 四名(三)
国立大学短大	一部三名(七) 二部 三名(三)
国立大学短大	一部一名(五) 二部 一名(二)
私立短大	一部一名(三) 二部 二名(二)
専門学校	一部二名(〇) 二部 〇名(〇)
就職一般	一九名
(住友銀行、松下電池etc)	
公務員	一三名
(国家公務員三種、航空保安大学校etc)	
主な進学先	国立 北海道大、千葉大、信州大、京工繊大、大阪大、大阪外大、

《伝言板》

来年度の

総会・懇親会(予定)

- ◎日時 平成二年十月二十八日(日)
- ◎場所 母校
- ◎総会 午後一時
- ◎懇親会 午後二時~四時
- ◎会費 未定(当日徴収)
- ◎来年は、旭窓会報の発行の無い年(発行は二年に一回)ですので、読売、朝日、毎日、産経の四大紙に予告記事を掲載いたします。

文化祭・体育祭

- 文化祭 九月二十四日(日)
- 体育祭 九月三十日(土)

十八期三年五組

松村組

- ◎日時 九月一日(日) 午後二時
- ◎集合場所 曾根崎警察地下一階
- ◎詳しくは米田まで
- ◎九二一四九〇六

事務局からのお願い

「原稿募集」

各期の会合記・クラブのOB会、在学当時の思い出やエピソード等会員からのご投稿をお待ちしています。
◎住所表示の改正や移転などの時、できる限り早く、お知らせ下さい。
◎その他、ご提案、ご質問などご遠慮なくお聞かせ下さい。

